

厳しい夏を乗り越え
迎えた収穫の秋



秋田県五城目町
朝市と城のある町

みんなの町議会

Contents

主な内容

- 9月定例会の経過 2
- 研修報告・人事案件 4
- 決算特別委員会 5~7
- 一般質問に10名登壇 10~20

No.160
2024.10.1

河道掘削 始まる 内水浸水対策 前へ

議会の経過

9月定例会は9月2日から13日まで12日間の日程で開かれた。

初日 3件の議員研修報告の後、渡邊町長は行政報告で「令和5年度の財政状況、JICAとの連携、企業版ふるさと納税の開始、デジタル専門監の任用、地域防災計画の改訂、新型コロナウィルスワクチン任意接種開始、農地林道の復旧状況、各河川の改修・整備の着手、朝市サミットへの動き、全国学力状況調査の結果」などについて述べた。その後、委員6名を選出し決算特別委員会を設置。

2日目 一般質問に6名が登壇。水害対策の確認、朝市マラソン復活、災害発生時の危機管理、ホームページ・SNS活用の充実、朝市の活性化、高校生の海外渡航補助などを質問した。

3日目 4名が一般質問に立ち、五城目高校の存続、総合発展計画について、今後の農業、馬場目川の再生について質問。

当局より令和6年度一般会計補正予算案など21件の議案と4件の報告案件が上程された。

4日目 各常任委員会。

8～11日目 決算特別委員会。各課室の令和5年度決算について審査。

現地視察、審査総括。

最終日 決算特別委員長、各常任委員長報告のあと、人事案件を含む全議案を可決、報告済み、同意とした。また陳情1件を全会一致で採択。委員会提出議案1件を可決し閉会した。



開会を待つ議場



馬場目川の土砂撤去に望みを託す

定例会で決した主な内容

- 工事請負変更契約の締結
 - 廣徳寺橋橋梁災害復旧工事（応急本工事）
 - 工事請負契約の締結
 - 廣徳寺橋橋梁災害復旧工事（橋台撤去、新設工事）
 - 五城目町過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部改正
 - 令和6年度一般会計補正予算の主なもの
- | | |
|-------------------|--------|
| まち・ひと・しごと創生総合戦略事業 | 100万円 |
| 空家対策推進事業 | 150万円 |
| 有害鳥獣対策費 | 500万円 |
| 現年災害復旧事業（農地農業用施設） | 3852万円 |
| 道路補修事業 | 2092万円 |
| 街路維持補修事業 | 800万円 |
| 矢田津世子没後80年事業 | 220万円 |
- 株式会社あつたか五城目の経営状況を説明する書類の提出について

（椎名 志保）

第2回臨時会 令和6年8月2日

○ 工事請負変更契約の締結について

令和5年災 廣徳寺橋橋梁災害復旧工事（応急本工事）

○ 専決処分の承認を求めることについて

・ 五城目町介護保険条例の一部を改正する条例
・ 令和6年度一般会計補正予算

6月30日からの大雨により、橋梁に引掛かった流木の撤去・処分費用
427万円

3議案を全会一致で可決、承認した。



工事が進む廣徳寺橋

第4回 議会議員 全員協議会 令和6年8月21日



実情に沿った計画に

避難行動の確認作業

協議案件

- (1) 下水道事業における内水浸水対策について
 - (2) 廣徳寺橋橋梁災害復旧工事請負変更契約について
 - (3) 廣徳寺橋橋梁災害復旧工事請負留意契約について
- 報告案件**
- (1) 五城目町地域防災計画の改訂について
 - (2) 五城目町子ども計画策定の進捗状況について

※議会議員全員協議会とは

議案の審査または議会の運営に關し協議または調整を行うための場であり、議員と町長はじめ町執行部が出席して行われる。

陳情と 意見書

9月定例会で採択となった陳情を意見書を添えて関係機関に送付しました。

採 択

◆ ゆたかな学びの実現及び教職員定数改善並びに義務教育費国庫負担割合引き上げをはかるための、2025年度政府予算に係る意見書採択の陳情

陳情者

秋田県教職員組合 執行委員長 小林久美子

意見書抜粋

子どもたちのゆたかな学びや学校の働き方改革を実現するために、加配教員の増員や少数職種の配置増、学級編成標準の引き下げ、少人数学級実施のための義務教育費国庫負担割合の引き上げを強く求める。

意見書提出先

- 衆議院議長
- 参議院議長
- 内閣総理大臣
- 財務大臣
- 総務大臣
- 文部科学大臣

（椎名 志保）

わだい

増える議会傍聴者

町民の議会への関心が高まっている。9月定例会へも多くの方々が議場へ足を運ばれた。傍聴者は年々増えており、令和4年度は延べ82名、昨年度は延べ132名に及んだ。

町民による議会傍聴者

ループ『傍聴族』も生まれ、傍聴後はカフェで感想を語り合うなど、議会が町の話題のひとつになっている。



馬川地区すまいるサロンの皆さん

令和5年度

決算特別委員会

水害にともない橋梁補修・農地復旧などの支出が大幅増



4日間にわたり行われた決算特別委員会



委員長
佐々木仁茂

決算特別委員会

- 委員長 佐々木 仁茂
- 副委員長 松浦 真
- 委員 荒川 滋
- 委員 工藤 政彦
- 委員 石川 重光
- 委員 佐沢 由佳子
- 委員 石川 交三 (議会議長)

決算特別委員会は、9月9日～12日までの4日間の日程で行われた。付託された議案は、令和5年度一般・特別会計歳入歳出決算など7議案であり、審査の結果、特別会計6議案を全会一致、一般会計は賛成多数で認定すべきものとした。

審査日程

- 9月9日**
 - 午前：委員長挨拶・審査方針説明
 - 午前：総務課、税務課
 - 午後：消防本部、出納室、住民生活課、商工振興課
- 9月10日**
 - 午前：建設課
 - 午後：生涯学習課、学校教育課、まちづくり課
- 9月11日**
 - 午前：議会事務局、農業委員会、農林振興課
 - 午後：健康福祉課
- 9月12日**
 - 午前：現地視察（備蓄倉庫、浄水場、廣徳寺橋、恋地滝ノ沢地区）
 - 午後：追加審査（農林振興課、まちづくり課、総務課）
- 認定について採決
審査総括

(松浦 真)

議員研修報告

福祉の現状と課題を学ぶ

研修名 市町村議会議員研修「社会保障・社会福祉」コース
研修期間 7月1日～3日
研修先 滋賀県大津市 全国市町村国際文化研修所
参加議員 荒川 滋 椎名 志保

議会広報の基本と編集

研修名 秋田県町村議会広報研修会
研修日 7月19日
研修先 秋田県市町村会館
参加議員 広報編集委員8名

時局を知る

研修名 秋田県町村議会議員研修会
研修日 7月19日
研修先 秋田県市町村会館
参加議員 議員14名



政局を知る貴重な機会

教育委員の任命に同意

再任 八木下真全氏 (56歳) 築地町

新任 鷺谷真一氏 (63歳) 中川原

人権擁護委員の推薦に同意

再任 猿田秀樹氏 (67歳) 岩野

議会選出の選挙管理委員会委員

再任 新谷研逸氏 (75歳) 米沢町

再任 本間重春氏 (70歳) 館越

再任 石井忠氏 (76歳) 小野台

新任 齊藤陽子氏 (76歳) 築地町

補充員

再任 渡邊律雄氏 (67歳)
新任 伊藤定広氏 (68歳)
新任 小玉仁志氏 (68歳)
新任 伊藤彰氏 (68歳)

(椎名 志保)

令和5年度 未曾有の水害 決算内容を審査



改修された農地（恋地滝ノ沢地区）

総務課

昨年7月の大雨災害により、町の財政に大きな影響があった。国からの交付金や災害復旧費が増加。経常収支比率は94.4%で、前年より1.3ポイント上昇している。今後の財源確保に向けた努力が必要である。災害対応に向けた基金の充実や、新たな財政シミュレーションの実施が求められる。

税務課

大雨被害による減免措置により、一般税と国保税で約3500万円の減少。財源確保の観点から更なる徴収努力が必要である。収納率向上のための施策が続けられている一方で、滞納繰り越し分の整理が今後の大きな課題。

消防本部

消防施設の老朽化が進んでいるため、適正な管理と維持が必要。今後計画的な修繕や更新が重要と指摘。

域で戸口運行が行えるよう指摘。

議事事務局

7月の豪雨災害発生直後の被災状況などの写真をまとめ、議会広報臨時号を発行。

農業委員会

耕作放棄農地は、隣接する農地に迷惑をかけている。農地所有者に対して農業委員会として指導するよう求めた。

農林振興課

災害時の流木の処理について、県や河川の関係町村と連携し、流木回収マニュアルの

出納室

工事検査員のスキル向上が課題。ESG債グリーンボンドなど有利な基金を運用することで、利息を得ていることは評価。

住民生活課

防災備蓄倉庫が完成。食料品や毛布などは一定の量が確保され、各避難施設にも分散備蓄が進められている。災害時の対応においては、職員の負担が大きく、今後は交代制勤務や防災監の任用など、体制強化が必要。特に災害対応の専門職員の配置をすべきと指摘。



今後の災害に備える備蓄倉庫

商工振興課

全町民に1万5000円分の商品券を支給し、換金率は

制定に向けて取り組むべきと指摘。

健康福祉課

特定健診と後期高齢者健診の受診率が上がった。検診により胃がんが2人、大腸がんが2人見つかり、検診の効果が表れた。老人クラブ組織が年々減少し、会員不足も進んでいることから、対応が迫られている。

国民健康保険特別会計

医療費削減のため、データヘルズ計画に基づき、ジェネリック医薬品差額通知などを実施。

後期高齢者医療特別会計

被保険者数は令和5年度末で2,316人。未納解消が今後の課題。

介護保険特別会計

第9期の事業計画期間中に介護給付費準備基金の取り崩しを予定。収支の状況を注視し、今後の介護保険事業の安定的な運営に努めることを確認。

98.75%。町内経済に寄与した。

建設課

廣徳寺橋の本体工事は令和6年度過年災へ予算が繰越。老朽化した橋が多くあり、将来的には一部橋梁を廃止する可能性があるが、橋梁が地域住民の生活に重要な役割を果たしているため、住民の意見を聞きながら慎重に進めていくことを確認。



浄水場を守る止水板

水道事業会計

7月の豪雨災害の浄水場被災で、8・9月分の水道料金を減免したこともあり、大幅な赤字決算となった。7年連

障害認定事業特別会計

3町1村で行う障害認定区分審査会の審査件数は合わせて55件で、五城目町は31件、新規認定者は7人。

追加審査

農林振興課

本来、令和5年度内に支払うべき鳥獣被害対策実施隊報酬が年度内に支払われず、未払いが発覚。今後は二度と繰り返すことのないよう強く指摘。

まちづくり課

集落支援員が使用する車は、公用車扱いだが、支援員が私的なことに使用することは問題ないと確認。

総務課

専門性を持った職員の採用や育成が重要であると指摘。第7次行革推進プログラムにより機構改革を行い、職員の中途採用も含めて必要な人員を確保していく。

続の赤字により、基本料金の改定を視野に入れることを確認した。

下水道事業会計

水洗化率は83.0%。災害減免により総処理汚水量594,713m³に対する有収率は72.0%であり、前年度比18ポイントの減少した。

生涯学習課

雀館運動公園の整備に多額の予算が投入されているが、人を呼び込む新たな仕掛けが必要と指摘。

学校教育課

教育留學事業に、小学生18名、中学生2名が参加。メリツトが多く好評を得ている。令和5年度4月から小中学校の学校給食費無償化を実施。保護者の経済的な負担が軽減され、喜ばれていることを評価した。

まちづくり課

デマンド型乗り合いタクシーの運行形態については、五城目地区以外の全ての地区が戸口運行を行っていることから、昨年度に引き続き、全

現地視察

備蓄倉庫、浄水場、廣徳寺橋（災害復旧）、恋地滝ノ沢地区（農地災害復旧）

の状況をそれぞれ確認した。



新しい橋梁を待つ廣徳寺橋

五城目町の子ども・若者を考える



撤去された大型遊具、子どもの居場所は

「五城目町子ども計画」を策定するため、8月に15歳～39歳の「子ども若者意識調査アンケート」を実施した。10月以降、保護者や教育関係者などの委員による「子ども・子育て会議」や、広く参加者を募りワークショップを開催予定。今議会では、子ども子育て会議の庶務を学校教育課から健康福祉課へ移行する内容の議案が上程された。委員から「健康福祉課の業務負担が増え、現状で対応可能か」と質疑があり、当局からは「子ども支援に関する業務は健康福祉課が適切と判断。教育委員会とは引き続き連携を強化し、協力して事業を進めていく」と答弁があった。

また、「遊具の新設や集約化を含め、子どもの居場所に関して、子ども子育て会議などの機会に広く意見を聞いてほしい」と委員から指摘があった。

また、『みんなの学校』には、令和4年度24講座に800人、令和5年度34講座1,800人の参加があった。令和6年度で3年目になることから、事業デザインを再検討す

(佐沢由佳子)

教育民生常任委員会

空き家解体を補助

空き家の適正な管理を推進するため、空き家解体撤去費を補助している。旧耐震空き家(S56.5.31)以前に建築された空き家に対して、費用の2分の1、15万円を限度とし、解体される所有者に補助するもの。当初より利用が

増えたことにより増額補正する。委員からは「解体希望に対して十分な対応が出来るか」と質疑があり、当局から「現在、申請を含め15件で大変好評。今後も住民のニーズを反映しながら事業を進める」と答弁があった。

町内外から高評価の教育事業

教育に関する点検と評価の報告がされた。『教育留学事業』は、令和4年度6名、令和5年度20名の生徒児童を受け入れており、一世帯の移住にもつながっている。令和6年度をもって県の事業としては終了する。委員から「参加者や学校側の満足度も高く、県内外からも注目を集めている。移住定住や空き家対策など各課連携し継続を望む」と指摘があり、当局から「次年度以降も町単独の事業として継続していく」と方針が示された。



令和6年度は34講座

廣徳寺橋復旧工事 応急本工事から本復旧工事へ

廣徳寺橋橋梁災害復旧工事(応急本工事)は、工事の精算により契約額1億9888万9900円(請負額1083万5000円減額)となる。委員から、本工事の工期や今後の工事、また事業全体の概算事業費についての質疑があり、当局から「1回目の変更契約は不測の事態による工期延長変更契約であり、2回目は既設堤防嵩上げの増工による変更契約。今回は工事精算による変更契約である。次期工事として行う下部工は、馬場目川左右岸にある橋台の取壊しと新設が主な工種。全体の事業費は総額8億円

を超える見込みであり、事業費の財源は91.4%が国庫負担である」と答弁があった。また、廣徳寺橋橋梁復旧工事(橋台撤去、新設工事)は、請負額 2億493万円、令和7年3月31日までの工期で請負業者(株)菅与組との随意契約を締結する。委員から「工所用仮橋や施工ヤードの敷鉄板など仮設材をそのまま利用することにより、そのま利用することにより、請負額に差はあるか」との質疑に「仮設材の設置などを除いた場合の設計額で約3110万円安価となる」と答弁があった。

ツキノワグマ誘引 樹木伐採事業補助金について、委員から「この事業は、柿・栗の伐採木1本についての補助か」との質疑に「木1本ではなく伐採処分によってかかった経費の1/2以内、上限が5万円であり、50件分子算計上した」と答弁があった。



(石川 重光)

熊がエサ(柿・栗)を求めて出没

総務産業常任委員会

料金改定や内水浸水対策を審議

町水道事業及び下水道事業の経営及び施策等に関する事項を審議する審議会を設置する。委員から「事業の活性化を図るため、料金の見直しが必要であるのか」との質疑に「料金改定や下水道事業における内水浸水対策についても審議いただく」と答弁があった。また、「料金改定となれば何年ぶりか。審議会委員構成と想定人数配分は」との質疑に「消費税率の改正に伴う改定はあったが、抜本的な料金改定は行ってない。審議会は学識経験者関係行政機関各3名、その他管理者が認める3名程度の構成を考えている、審議内容によって構成委員の増減を判断していく」と当局より答弁があった。



解体撤去が完了した工事現場

役場のDX推進は

町長 業務の効率化やサービスの向上をめざす

※フロントヤードとは窓口または住民と自治体の接点

小玉 DXの目的である業務の効率化・自治体*フロントヤード改革の推進などへの取り組み状況は、
町長 マイナポータルを活用した「電子申請サービス」や、証明書の申請書類をマイナンバーカードで作成する「書かない窓口」、今年度導入予定の自宅へ入札に参加できる「電子入札システム」などがある。また、住民票や所得証明書などをマイナンバーカードで取得できるようにする「コンビニ交付システム」の導入も検討している。今後もフロントヤード改革を進め、業務の効率化やサービス向上を目指していく。

農業用排水の水門は、土地改良区が管理するよう協議中である。現在は地元消防団員や町内会役員から操作してもらっている。

町長 現状では町民からの出合いアプリ使用に対する補助の要望はなく、補助制度は検討していない。昨年度まで実施してきた出合いイベントは、町民の参加者が少ない状況が続いていたため、今年度から廃止した。今後も町民の声に耳を傾け、ニーズに合う出合い対策を検討していく。



町長 友愛館は、平成22年より活用されており、開館期間は4月～11月である。一般利用者他、教育関係団体の利用も多数あり、年間約1,300人の訪問がある。施設の特徴を生かし、シドケ収穫体験やそば打ち教室など、年間5～6回ほどイベントを開催している。これまで町の広報や施設へのポスター配布のみのイベント告知だが、今後はホームページでの情報発信など、なお一層のPR活動に努め、利用促進を図っていく。

あなたにかわって聞きました 一般質問



小玉 今年、5月からずっと雨の降り方を心配してきました。町では内水氾濫を防ぐため、樋門にフラップゲートを設置する予定だが、その工事が完了するまでの間、樋門の操作はどうするか。



町長 フラップゲートの設置には時間を要することから、樋門の操作規則を、秋田県下水道マネジメント推進課から助言をもらい、作成中である。また、秋田地域振興局建設部と連携して、河川水位や気象情報などを収集し、操作する職員の安全確保を図り、適切な樋門操作に努める。

若者の出合い対策



小玉 8月26日、こども家庭庁が、結婚した若者へのアンケート結果を発表した。出合いのきっかけとして出合いアプリが25%を占める。実に4分の1である。最近の若者は合理的で慎重に行動する。県南では若者の出合い対策として、地域を限定した出合いアプリ使用に補助金を出している。本町ではそのような計画はないか。

友愛館でそば打ち体験

小玉 杉沢交流センター友愛館での活動実績・実態は、釣りキチ三平ルームや昭和の道具・写真の展示、そば打ち体験などのイベントがあり、素晴らしい施設のわりに宣伝が足りないと感じる。もっと広報活動をしてはどうか。

町長 友愛館は、平成22年より活用されており、開館期間は4月～11月である。一般利用者他、教育関係団体の利用も多数あり、年間約1,300人の訪問がある。施設の特徴を生かし、シドケ収穫体験やそば打ち教室など、年間5～6回ほどイベントを開催している。これまで町の広報や施設へのポスター配布のみのイベント告知だが、今後はホームページでの情報発信など、なお一層のPR活動に努め、利用促進を図っていく。

一般質問

過去最多 10議員が登壇 我が町政を問う

一般質問とは？

- ・年4回の定例会において、議員が町政全般について現状や方針を問うものです。
- ・答弁を含む一人当たりの持ち時間は60分で、事前通告制が採用されています。
- ・質問をするかしないかは、議員個人の判断によります。

質問者

小玉 正範 議員

- 水害対策の確認
- 役場のDX
- 独身の若者への出合い対策
- 町の図書館わーくる・杉沢交流センター友愛館の活用促進について

伊藤 信子 議員

- 朝市マラソンについて
- 乗合タクシーについて
- 町長選挙について

中村 司 議員

- 五城目町の誇り・郷土愛・五城目らしさについて
- 災害発生時の危機管理について
- 人材育成について
- 職員採用試験について

佐沢由佳子 議員

- 町のホームページ・SNSについて
- 空き家バンクについて
- 防災無線聞き直しダイヤルについて
- 公共交通について

石川 重光 議員

- 朝市出店しやすい環境づくりについて
- カラス対策をすすめるよう
- 戸村堰緑道の維持管理について

松浦 真 議員

- 高校生の海外渡航補助をふるさと納税で
- 矢田津世子を今後どのように町内外に発信していくか
- タブレットの更新および古いタブレットの有効活用は
- 樋門管理のあり方は
- 遊具新設とエリアマネジメントの融合を

工藤 政彦 議員

- 五城目高校の存続に伴う協議会の設立について
- 鳥獣被害対策に伴う「電気柵」設置者への町単独補助金の交付について
- 内川川と富津内川と馬場目川のそれぞれの合流部に排水機場（排水ポンプ）の設置を
- 矢田津世子の肖像写真の設置について

荒川 滋 議員

- 災害に強い町になるために
- 前期基本計画の折り返しを迎えた総合発展計画について

椎名 志保 議員

- 農業の可能性を
- 住民が抱える問題への対応力強化を
- 少子化により運営に苦慮するもりやまこども園を町としてどうしていくか
- 国際的な学びの推進を

斎藤 晋 議員

- 昨年大雨被害について
- 高齢化対策について
- 空き家対策と商店街の復活について
- 馬場目川の再生について
- みんなの居場所について

* 誌面の関係上掲載できなかった●印の質問については、町ホームページにて議会議像を配信しておりますのでそちらをご覧ください。



五城目町議会映像配信中 www.gojome-town.stream.jfit.co.jp

(中村 司)

町の誇り・郷土愛・ 五城目らしさとは

町長 有形無形問わず、町のものや人



五城目のランドマーク 森山

【町長】 今後は、人口規模に見合った事業展開が必要と思われるが、行政の業務としては、誰ひとり取り残さない事業を展開することを念頭に、事業の効率化を目指す。

【中村】 長い歴史の中で紡いできた文化や風土、産業や街並みがある。人口減少が続く中、地域資源について強み・弱みを踏まえ、攻めるべきもの・守るべきものを具体的に町民に示し、事業と予算の選択と集中が必要では。

あなたにかわって
聞きました
一般質問



一般質問動画はQRコードから

【町長】 改訂にあたっては、令和5年7月大雨災害の教訓を反映させるべく、関係機関との振り返り、検証を行っている。また広く意見を聴くため、町内会や自主防災組織を対象とした地区住民説明会を開催

【中村】 昨年7月15日の大水害発生時、自主防災組織（町内会）への情報伝達や避難所設置・受入体制、避難行動要支援者・要配慮者の避難誘導において、様々な課題があった。関係者との協議、検証を十分行い、地域防災計画改訂に反映させるべきでは。



避難所設置訓練の様子

災害発生時における
危機管理対応の検証を



研修でスキルアップを

【町長】 勤続年数別、階層別など、毎年30名前後の職員を研修に派遣している。しかし、JIA Mへの派遣はコロナ禍の影響もあり、令和元年に2名派遣以後、派遣実績はない。今年度は海外研修へ1名派遣する。秋田県自治研修所での

【中村】 研修参加により、他自治体職員との意見交換や交流、スキルアップ、モチベーションの維持・向上が期待される。人への投資は町民の利益につながる。特に全国市町村国際文化研修所（JIA M）への派遣機会を増やすべき。

地域経営の
根幹は人材

するほか、パブリックコメントを実施する。

【町長】 当町で導入している人事評価は、業務目標をどれだけ達成出来たかを自己評価し、課長補佐以上の評価者が評価する制度であり、国の制度を準用している。国の動向を注視しつつ、他の評価システムの情報収集に努めたい。

【中村】 民間では、部下が上司を評価する360度評価を実施する企業が増えてきている。パワハラ、セクハラ防止、被評価者の多面的評価、管理職の適性判断などのメリットがある。リスクなどを理解したうえで、導入を検討してはどうか。

【中村】 人事考課は昇給や昇進に反映されているか。

【町長】 地方公務員法の規定で実施が義務化されており、人事評価の結果を定期昇給などに反映させている。

人事考課の
運用状況は

能力開発研修や総務省などのeラーニングやリモート研修など、過去5年間で研修実績のない職員には積極的に受講を促す。

朝市マラソン 復活できるか

町長 新たな実行委員会によっては
支援のあり方を判断



第22回開催時のスタート模様

【伊藤】 26回開催された朝市マラソン大会について、町長にとってのイメージと評価を伺いたい。

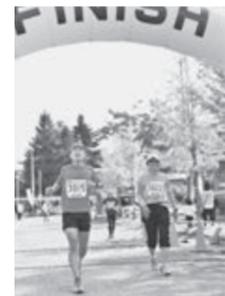
【伊藤】 22回目の開催時は1,012名の参加であった。町内外、県外のマラソン好きの方々から、朝市マラソン大会は開催しないのかと尋ねられる。マラソン大会の中止理由として実行委員の高齢化、スタッフ不足、予算不足

あなたにかわって
聞きました
一般質問



一般質問動画はQRコードから

の小中学生の参加や県内外から多くのランナーが参加するなど、町の中心的イベントであったと認識している。運営については実行委員会始め多くのファンに支えられてきたと評価している。



さわやかにゴール

【町長】 近年の支援団体、専門性を要する実行委員の減少、高齢化により運営を維持することが困難であるとの申し出から、令和4年度以降開催しないこととなった。今後新たに実行委員会が設立され、時代にあったしっかりとした体制が出来たら、町として支援のあり方を判断したい。

【町長】 町民の皆様からの信頼を賜り、五城目の舵取り役の重責を担い、本年度で20年となる。単独立町を選択した後の就任は、新たな「まちづくり」のスタートとなり、二度にわたりハード面の整備に取り掛かった。今は自身の身の振り方よりも、大雨災害の復旧復興に向け、全力を傾注している。

町中心部にも
乗合いタクシーを

町長選挙、
出馬は

町内がある。その後どのように進展しているか。

【町長】 現状では、町中心部に住んでいる方が利用登録出来ず、拠点施設間移動も出来ない。そのため改善に向けて、運行方法や料金設定など事業者と協議・検討を進めている。

【伊藤】 今、町民が関心を寄せている来年2月の町長選挙に、現職は6期目を目指して出馬の予定はあるのか。

【町長】 町民の皆様からの信頼を賜り、五城目の舵取り役の重責を担い、本年度で20年となる。単独立町を選択した後の就任は、新たな「まちづくり」のスタートとなり、二度にわたりハード面の整備に取り掛かった。今は自身の身の振り方よりも、大雨災害の復旧復興に向け、全力を傾注している。

テント設置で朝市の景観づくりを

町長 のぼり旗で気運を高める



すき間の多い平日の朝市

町長 テントの設置と撤去に要する人員、時間を考慮すると現実的でない判断する。

町長 テグスや箱わなの設置のほか、東北電力やN T Tの協力を得て、電線などに様々

カラス対策をすすめよう

町長 カラスの糞による被害は、建物や歩道、車道、車の汚れの他、悪臭や歩行者の通行の妨げにもなっている。町の対策は。

町長 委託販売などについて以前、生産者から否定的な意見があった。改めて出店者に意向を確認したところ、一部の出店者からは、条件が合えば対応可能であることを確認できた。今後も生産者の声を収集していく。

町長 町内の空き家を調査中の現段階で、600件ほどある。その中でWEBページに掲載しているものは3件。全国版の空き家バンクの情報収集を行いながら、導入について検討する。

町長 ホームページやSNSは、町内外に町の情報を発信しPRする重要な手段である。現代では、スマートフォンで手軽に検索する人が多い。画面の表示がそのまま町の印象になる。デザインが洗練されているか、町民が知りたい情報や観光情報が充実しているかなど見直し、検討してはどうか。

町長 必要に応じてデザインや使いやすさを見直していく。

町長 SNSの活用も重要であり、公式LINEを整備する自治体が増えている。災害による緊急発信など必要な情報が受け取れ、AIの活用により24時間365日問い合わせ

町長 本町部では、電線や街路樹のある道路の路面は汚れ、景観を損なっている。町の品格にかかわることでもある。糞が原因で健康面でのリスクも無視できないところであり、電線の鳥よけ対策を関係団体と連絡をとりながらすすめるべき。

町長 年2回の除草や樹木の剪定作業を実施している。大木化した樹木については、計画的に基本剪定を実施していく。補修・改修については、有利な補助事業などの適用の可能性を調査しながら、現在通行止めで使用頻度の少ない木橋の撤去や木柵の更新、通路の段差など順次補修し、安心して利用できる施設づくりをしていく。

町長 戸村堰緑道公園内の木橋や防護柵の劣化による補修や改修、また、樹木の剪定などが必要と感じた。計画はあるか。

町長 可能なため、職員の業務の効率化や住民のニーズの把握にも役立つと考える。検討してはどうか。

町長 デジタル化による業務改善や住民サービスの向上を図るため、新たに役場内にデジタル専門監を配置する。各種デジタルサービスの導入についても助言を得ながら検討する。

町長 戸村堰緑道公園内の木橋や防護柵の劣化による補修や改修、また、樹木の剪定などが必要と感じた。計画はあるか。



住民憩いの場は安全か

戸村堰緑道の維持管理計画はあるか

防災行政無線 聞き直し無料化へ

町長 今後速やかに検討する

佐沢 防災無線が聞き取りにくい場合に活用される聞き直しダイヤルは、現在有料である。町民に情報を確実に届けることが大切であり、他の自治体も採用しているフリーダイヤル化をしてはどうか。

町長 登録制メールの利用者は現在808件。聞き直しダイヤル1ヶ月の利用者は平均20件であり、大きな災害が発生した令和5年7月は1,562件もの利用があった。防災無線のみで全ての情報を伝えるには限界があり、情報伝達の多重化を進めている。フリーダイヤル化は、町民の利便性を高めるものであるため、今後速やかに情報収集と検討を行う。



全国に周知を

佐沢 空き家は深刻な問題であり、売り買いたしたい人のマッチングを望む声が多い。現在、全国版の空き家バンクがある。テーマに沿っての検索や、広く町を周知することも出来る。全国の事例を参考にし、情報を整理する良い機会であるとも考える。導入してはどうか、町の考えは。

全国版空き家バンクに登録を



大切な情報を伝える防災行政無線

ホームページ・SNSの有効利用を

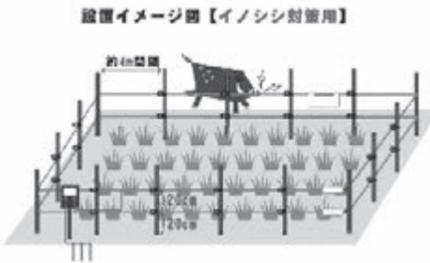
町長 ホームページやSNSは、町内外に町の情報を発信しPRする重要な手段である。現代では、スマートフォンで手軽に検索する人が多い。画面の表示がそのまま町の印象になる。デザインが洗練されているか、町民が知りたい情報や観光情報が充実しているかなど見直し、検討してはどうか。



自治体LINE活用イメージ

イノシシ被害対策に 町単独補助を

町長 電気柵などに上限5万円を補助する



工藤 鳥獣被害防止総合対策交付金事業で侵入防止柵の整備があるが、受益農家の戸数要件の課題が煩雑であり、設置希望者は申請しづらくなっている。最近ますますイノシシなどの農作物被害の報告が増えていることから、申請しやすい町単独事業で補助金の交付ができないか。

町長 今定例会に鳥獣被害防止防護柵等設置事業補助金を計上、イノシシによる農作物被害防止対策として、電気柵

あなたにかわって

聞きました

一般質問



どうも
工藤 まさひこ
政彦

一般質問動画はQRコードから

高校生がグローバルに 活躍するには

町長 海外渡航支援事業を行う



町内在住高校生がニューヨークへ

あなたにかわって

聞きました

一般質問



まつうら
松浦 まこと
真

一般質問動画はQRコードから

工藤 県教育委員会は、少子化に歯止めがかからない中、各地区で統合や地域校化の再編を進めるとし、五城目高校は「入学者数の推移を見極めながら、方向性を検討」と示された。

町のにぎわいと地域活性化につながる五城目高校の存続に向けた協議会などの立ち上げが必要と考えるが。

町長 五城目高校は入学者数の減少が続いていることか



創立60周年を迎えた五城目高校

**五城目高校の存続へ
向けて協議会の設置を**

などの購入費用を2分の1、上限5万円として補助する。町単独の補助であり、農家個人で導入できるが、設置資材の維持管理は所有者が行う。多くの農家による適正な運用が、被害を食い止める対策になると認識している。

矢田津世子作品の発信は

松浦 没後80周年の今年、矢田津世子の未発表原稿「みぞれ」が発見された。これまでのような簡易出版だけではなく、流通に乗せたほうが良いという声もある。町の考えは。

町長 五城目町出身の女流作家矢田津世子の郷土への深い愛着のある作品を集め、未発表作品集として出版を計画している。

流通はこれまでの作品集同様、五城目町教育委員会刊行の未発表作品集として五城館での取り扱いとする。

松浦 作品内に出てくる古寺などの聖地を予算をかけなくても町内外に向けて発信できないか。

生涯学習課長 ホームページなどでの発信につとめる。

桶門管理のあり方は

松浦 大川地区の農業用桶門などは高さが低く、内水氾濫をフラップゲートで防げない。対応は。

町長 大川地区については今

肖像写真の設置を

工藤 今年没後80年を迎えた作家矢田津世子。町に研究者やファンが訪れることを期待し、朝市通り入口にある矢田津世子文学碑コーナーに津世



津世子の肖像写真をフォトセラミックで

内川・富津内川・馬場目川それぞれの合流部に排水ポンプの設置を

工藤 先月25日、26日にかけての夜半、一気に内川川の水位が上昇し、川沿い付近の住民は家屋浸水の心配をした。3年連続の被害とならずに安心したものの、大雨の度に心配が絶えず、地区住民を思えば心が傷む。早期の内川川のバイパス河道の完成を望むが、三河川の水を排水ポンプで強制的に送出すために合流部に排水機場の設置を。

町長 県によると小河川や水路への逆流対策が目的の施設であるため、当該河川への設置は効果が得られないとのことであった。

ら、県の動きを注視しながら、高校とも連携し、県・高校・町行政を含む地域が一体となって取り組んでいくべき課題と考えている。

遊具新設とエリアマネジメントの融合を

松浦 町内の遊具は修繕不要が6基のみで、撤去が12公園31基。新設場所はどこか。また、どのような遊具を選定するのか。

町長 遊具については点検結果を踏まえ、修繕や撤去の予算を本定例会に計上した。今後はアンケートやワークショップ、パブリックコメントなどにより、様々な機会で見を集めながら、子供の居場所作りやこれからの遊具のあり方について検討する。



雀館公園に賑わいの場を

将来の農地の姿 どう示す

町長 農業者と話し合いを行う

町長 法人や営農団体に對する支援を拡充し、個々の営農から集団での営農への転換を進め、まずは担い手の経営安

町長 現状地図を作成し、10月下旬以降、各地域の農業者との話し合いを行いながら本年度末までに策定する。

町長 現状地図を作成し、10月下旬以降、各地域の農業者との話し合いを行いながら本年度末までに策定する。

町長 現状地図を作成し、10月下旬以降、各地域の農業者との話し合いを行いながら本年度末までに策定する。

町長 現状地図を作成し、10月下旬以降、各地域の農業者との話し合いを行いながら本年度末までに策定する。

あなたにかわって
聞きました
一般質問



一般質問動画はQRコードから



シャインマスカットに挑戦中

町長 畑作物へ転換する農業者に對し、機械や設備導入の支援はしているが、今後は苗木の購入や設備導入の支援拡充も検討する。作付面積の増大を図るため、団体への支援

誰もが閲覧可能な 河川カメラ設置を

町長 実証実験で有効性を確認したい

町長 このたび(株)秋田ケーブルテレビとカメラ設置の実証実験覚書を締結し、3ヶ所に設置した。

町長 このたび(株)秋田ケーブルテレビとカメラ設置の実証実験覚書を締結し、3ヶ所に設置した。

町長 このたび(株)秋田ケーブルテレビとカメラ設置の実証実験覚書を締結し、3ヶ所に設置した。

町長 このたび(株)秋田ケーブルテレビとカメラ設置の実証実験覚書を締結し、3ヶ所に設置した。

町長 このたび(株)秋田ケーブルテレビとカメラ設置の実証実験覚書を締結し、3ヶ所に設置した。

あなたにかわって
聞きました
一般質問



一般質問動画はQRコードから

町長 少子化であるからこそ集約の利便性は重要である。本町では役場一階で各種手続きが出来、利便性があると考

町長 少子化であるからこそ集約の利便性は重要である。本町では役場一階で各種手続きが出来、利便性があると考

町長 少子化であるからこそ集約の利便性は重要である。本町では役場一階で各種手続きが出来、利便性があると考

町長 少子化であるからこそ集約の利便性は重要である。本町では役場一階で各種手続きが出来、利便性があると考

町長 少子化であるからこそ集約の利便性は重要である。本町では役場一階で各種手続きが出来、利便性があると考

町長 少子化であるからこそ集約の利便性は重要である。本町では役場一階で各種手続きが出来、利便性があると考



屋内大型遊具を備えた「みっしゅ」(三種町ホームページより)

町長 少子化であるからこそ集約の利便性は重要である。本町では役場一階で各種手続きが出来、利便性があると考

あれ



なんとになったべが!

シリーズ ついせき 123

令和5年9月定例会一般質問より

あなたにかわって
聞きました

一般質問

65歳以上の世帯数は

町長 1,809世帯 男性1,006人
女性1,514人 合計2,520人



さいとう 齋藤 すすむ

一般質問動画はQRコードから

パソコンもスマホも
操作できない高齢者
に優しい行政を

齋藤 マイナンバーカードを作っていない、パソコン・スマホも持っていない高齢者に対して、もっと解りやすい行政通知をすべきだ。また、高齢者に不利益にならないような行政であるべき。

町長 高齢者を含め、パソコン・スマホを持っていない、操作できない方も、行政手続きにおいて不利益にならない通知を作成するよう指示を徹底する。

馬場目川の水质・
自然環境の再生を

齋藤 何回も質問・要望しているが、馬場目川の川底は泥だらけになり、水質も変わり、魚が住みにくい川になっている。川の管轄は町ではなく県であるが、町民からの苦情や要望が町に寄せられたら、県に苦情・要望を伝え、対策してもらうべきである。

町長 水害対策などで県に要望しているが、川の自然環境など、川の再生については要望したことは無い。

- ②確認欄の(2)を確認する。
- ③氏名、確認日、連絡先電話番号を記入する。
- ④裏面の本人(代理人)確認書類欄に、マイナンバーカード、運転免許証、パスポート等のうち、いずれか1つのコピーを貼り付ける。
- ⑤裏面の振込先金融機関口座確認書類欄に、記入した受取口座の金融機関名、口座番号、口座名義人(カナ)が分かる通帳やキャッシュカードのコピーを貼り付ける。
- ⑥代理人(本人以外)が、確認・請求・受給を行う場合は【代理確認・受給を行う場合】へ記入し、裏面本人(代理人)確認書類欄に、代理人のマイナンバーカード、運転免許証、パスポート等のうち、いずれか1つのコピーを貼り付ける。

マイナンバーカード・免許証・パスポートが無いと申請できない通知

町民が困っている事が、町の管轄でなく
県の管轄だとしても、町が県に申し入れ、
解決すべきだ。行政の責任である。

齋藤 川を管轄しているのは県である。しかし、町民が川の水質、自然環境で困っている問題があれば、町が県に対して対策を要望するべきと何回も言っているにもかかわらず、県に対し一回も要望していない。これは、どういうことか。

副町長 川環境に関しては要望していないが、八郎湖環境対策室との水害対策の打ち合わせで、河川の自然環境の話をした経緯はある。



川底には、泥がいっぱい

問

1年前の答弁 現在は止水対策を実施し、現在地でのかさ上げや移転の可能性について今後調査する。そして浸水対策を盛り込んだ新たな水道ビジョンによる施設の更新を進めていく。

現在 止水板については令和5年度、6年度2ヶ年で整備し完了している。浄水場の更新については、令和6年3月に新水道ビジョンを策定し、現在検討中。令和15年度の施設更新完成を目指す。



問

床上浸水被害に見舞われた田町杉ヶ崎地区は4度目の被災であり、以前より範囲も広がった。全体の対策と共に、農業用水路内の州ざらいを早急に。

1年前の答弁 令和4年、県の担当者が現地確認し、改修の必要性を理解したが具体的な方策がなく、検討を継続している。町としても協議していく。

現在 今年6月末頃に現在土のうを置いておくところへ、嵩上げするための大型土のうを設置した。今後、山地から市街地へ流入する雨水については、下水道事業における内水浸水対策を含め、流入を抑制するための対策(ため池などの活用)について検討を行う。

問

7月災害では、道の駅のトイレ・休憩所を含むすべての建物が締め切られ全館休業した。貯水槽設置とレジリエンストイレに変えて、道の駅に防災拠点機能を持たせては。

1年前の答弁 国交省から「防災拠点自動車駐車場」の指定を受けるため、秋田県との協議が進められている。その場合、一般車両の駐車は制限されるので防災計画には「道の駅」を避難所として指定していない。災害救助関係者利用を考慮し、トイレの整備に情報を収集する。

現在 防災拠点自動車駐車場については、既に指定済みであることを確認している。道の駅のトイレは県が所有する建物であることから、断水時にも対応できるよう引き続き貯水槽の設置を要望していく。



問

近頃の雨の降り方は過去とは比較できないくらい雨量が多い。万が一の際に、生命と財産を守る「排水機場」が、なぜ馬場目川流域に設置されていないのか。

1年前の答弁 町でも様々な角度から調査し、必要な施設であれば、今後雄物川圏域流域治水協議会下流域分科会において、町からも排水機場について提案していく。

現在 排水機場の設置について県に考え方を確認したところ、排水機場は小河川や水路に設置するものであるため、河川への設置は効果が得られないとの回答を得ている。



(小玉 正範)



議会を傍聴しました

傍聴席に座ってみて



宮田智華子さん
(岡本一区)

私が日々尊敬する人たちは、普段から町の気になる事について話をしている。今までそんなことを考えることもなく生きてきた私にとっては、とてもエキサイティングな時間で、それが日常会話で目の前で繰り広げられているのが何だか嬉しくて、私も町のことを気にしてみようという気持ちにさせられる。



らない話し方や声のトーンに顔の表情など、様々な感情が伝わってくる。町政は自分たちの暮らしに繋がる大切な仕事をしている。

傍聴席は町民の意見がどのように反映されていくのかを知ることが出来る場所。私たちが投じる一票を考える上で、たくさんの人に向いてほしい場所だと今更ながら感じた。だから、私はまた傍聴に行こうと思う。



(佐沢由佳子)

がんばってます

力を合わせて



五城目第一中学校
生徒会長
伊藤 □□さん

令和6年度の前期生徒会では、3つの新たな取組を行いました。一つ目は、町の防災訓練への参加です。生徒会からの呼びかけを行ったところ、十五人の生徒が参加しました。昨年度、記録的大雨により町全体が被災したことは記憶に新しく、今後このような自然災害は起こり得ると思います。そんなときに備えるために何かできることはないかと、私も参加を決めました。地域の方たちのご指導のもと、テントを組み立てたり、防災無線の使い方を学んだりし、防災へのスキルアップにつながりました。先日行われた五中祭では、一年生が防災訓練の振り返りを発表し、全校生徒や地域の方と取組を共有することで、町全体の防災意識が高まればと思います。

と、そして、その山から流れる川を通じてごみが海に流れている」というお話が印象に残りました。講話の後は全校で清掃活動を行いました。普段何気なく通っている通学路も、タバコの吸い殻や、空き缶、ペットボトルがたくさん落ちていました。これからも地域の美化活動に取り組んでいきたいと感じました。

三つ目はペットボトルキャップの回収活動です。学校で集めたキャップを回収業者へ持っていき、換金します。このお金はJCV(世界の子供にワクチンを委員会)を通してユニセフへ寄付されます。発展途上国では、感染症は命を脅かす恐ろしいものです。小さな活動でもかけがえない命を救うことが出来るのは、大切なことだと感じます。これらの活動は、一人では決して成し遂げることはできません。ここにいる五中生のみならず共に、力を合わせてきたからこそできたことです。全校生徒のみならずには心から感謝しています。

(伊藤 信子)

編集 後記



本年9月は町民にとって悲喜こもごもとした月になったことだろう。新米が大幅に値上され、農家には久しぶりの朗報。また、サンマも豊漁で安くなるなどのこと。

政界に目を向けると、自民党総裁選演説では、各候補が皆声高に、税制・政策活動費等々を話題にしている。でも、国会で議論していた時、なぜだれもそのことに意見を言わなかったのか。意見を出せば、もっとあつさり厳しい法案が通っていたのではないか。派閥への付度か。それなら誰のための政治か。

我々町の議員は、あくまでも町民の利益を考えて行動しているつもりである。そんな熱い意志が感じられる「みんなの町議会」でありたいと願っている。そのため工夫は惜しまない編集委員達だ。でも、それを判断するのは読者である町民だ。今後も厳しい目で見たいだくことを期待します。

小玉 正範 記

